

# 研究助成 平成21年度 報告書

作成日のみ記入して下さい

財団法人 黒潮生物研究財団  
理事長 深田 純子 殿

作成日 平成22年 2月 17日  
受領日 平成22年 月 日

貴財団の研究助成により、下記の成果を上げましたので報告いたします

助成者対象者氏名(ふりがな)	上野大輔(うえのだいすけ)
----------------	---------------

学生の方はこちらに記入してください

学校名	広島大学大学院	学部 学科 講座 等	生物圏科学研究科
学 年	博士課程後期3年	区 分	卒研・修研 <b>博研</b> その他 ( )
指導教官 氏 名	長澤和也	指導教官の所属・職	広島大学大学院生物圏科学研究科・教授

一般の研究者の方はこちらに記入してください

所属		職名	
最終学歴		学位等	

研究課題名	四国黒潮流域における魚類寄生虫相の解明
助成を受けた研究内容について、学会等での発表、学術誌等への公表を行った場合には、下欄にその内容（講演の場合：学会名、期日、タイトル、発表者名等、著作の場合：著者、発行年月、タイトル、雑誌名等）を記入して下さい	
学術論文	
<p><u>Uveno D.</u> &amp; Nagasawa K. (2010年2月出版) Three new species of <i>Hatschekia</i> Poche, 1902 (Copepoda: Siphonostomatoida: Hatschekiidae) parasitic on boxfishes (Pisces: Tetraodontiformes: Aracanidae and Ostraciidae) in Japanese waters, Systematic Parasitology, 75, 147-150.</p> <p><u>Uveno D.</u> &amp; Nagasawa K. (2010年出版予定) Four new species of <i>Peniculisa</i> Wilson, 1917 (Copepoda: Siphonostomatoida: Pennelliidae) parasitic on coastal marine fishes in Japanese waters, Journal of Parasitology (投稿中).</p>	
国際学会における発表	
<p>The Crustacean Society Summer Meeting in Tokyo (2009年9月20-24日) Parasitic copepods of the genus <i>Hatschekia</i> (Siphonostomatoida: Hatschekiidae) found on tetraodontiform fishes from Japan, <u>Uveno D.</u> &amp; Nagasawa K.</p>	

## 研究の内容(研究成果)報告書の作成要領

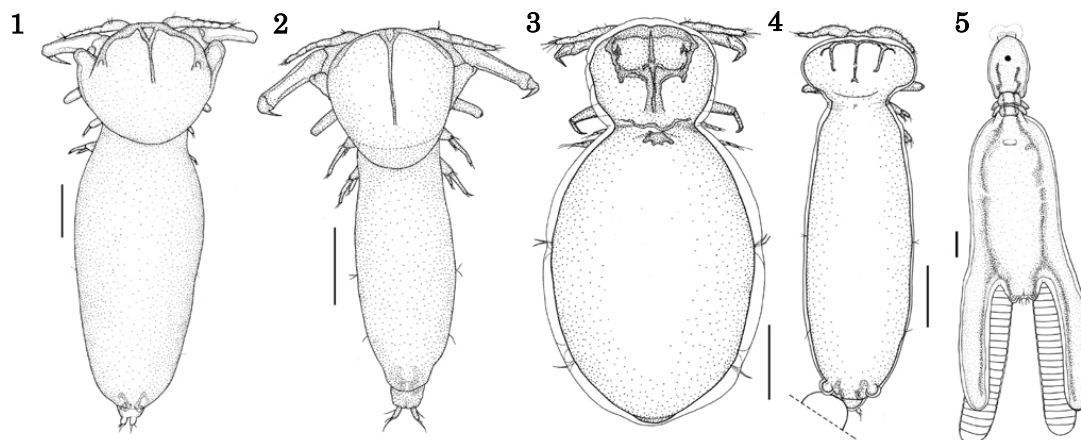
- ・研究成果をA4の用紙1枚にまとめて下さい。
- ・言語は日本語とします
- ・1行目に研究課題名、2行目に研究の実施者名(助成対象者名に○印をつける)を記入してください
- ・以下は図表、テキスト等、自由にレイアウトして結構です
- ・報告書は、一太郎2007、花子2007、MS-Word 2007、MS-Excel 2007、MS-PowerPoint 2007、Adobe-Photoshop CS2、Adobe-Illustrator CS2、Adobe-Acrobat 8.0で表示可能なファイル形式で作成してください
- ・特殊なフォントを使用される場合は、埋め込んで下さい
- ・成果報告書は当財団のホームページ等に公表しますので、著作権やデータの取り扱い等には十分ご注意ください
- ・報告書(この紙と成果報告書の2枚)は、出力したものを郵送した上で、ファイルを電子メールまたはCD等の媒体に納めてお送り下さい
- ・電子メールでお送りの場合、添付ファイルのサイズは数100KB程度までにしてください
- ・提出期限は平成22年2月17日とする

申請者氏名	上野大輔
研究課題名	四国黒潮流域における魚類寄生虫相の解明

申請者は、2009年度黒潮生物研究財団からの助成を受け、高知県における魚類寄生虫相の解明及び、熱帯域からの進入の可能性について検討した。本年度内においては、寄生虫調査を3回実施し(2010年3月にもう一回実施予定)、28魚種から32種の魚類寄生虫を採集した(寄生性カイアシ類28種、チョウ類1種、寄生性等脚類2種、ヒル類1種)。最も多くの種が得られたのは寄生性カイアシ類であり、現在までに未記載種7種が確認されている。寄生性カイアシ類の中でも、最も多くの種数が発見された *Hatschekia* 科の *Hatschekia* 属カイアシ類は、11種中4種が未記載種であった。このうち2種(図1, 2)については新種として記載を行い、1種(*Hatschekia kuroshioensis* Uyeno & Nagasawa, 2010)には採集地である黒潮町から種名をいただいた(添付の文献参照)。残り2種(図3, 4)についても、現在新種として記載を進めている。また、その他7種についても3種は未記載種の可能性があり、更なる検討を要する。本属カイアシ類は様々な硬骨魚類を宿主とし、多くの種は熱帯域を中心に分布することから、温暖化に伴う魚類寄生虫の北進を調べる指標として適当であると考えられる。今回発見された種の多くは、これまで高知県以北から報告されたことが無い種であり、南方から進入してきた可能性がある。しかし、その報告例の乏しさから、本来の分布域の特定は現段階では困難と言える。今後は経年的に調査を継続し、寄生虫相の変遷について追跡する必要がある。

そのほか、ペンネラ科カイアシ類の *Peniculisa* 属の未記載種1種(図5)についても記載し、投稿された論文はまもなく受理される予定である。ツブムシ科カイアシ類1種とホソエラジラムシ科カイアシ類1種は、未記載属である可能性が強く示唆されるなど、高知県の黒潮流域における、寄生虫の高い多様性を示す結果が得られた。なお、得られた未記載種の一部については、2009年の *The Crustacean Society, Summer Meeting* において発表した。

このように短期の研究期間であったにも関わらず、多くの新しい知見が集積された。また、今後調査を継続することで、熱帯域からの魚類寄生虫の侵入について明らかに出来る可能性は非常に高い。本研究に対する助成期間は終了するものの、高知県沿岸域における魚類寄生虫相調査は、今後も引き続き行う予定である。



本研究において採集された寄生性カイアシ類。図1, 2は新種として記載された(*Hatschekia bibullae*, *H. kuroshioensis*)。

図3, 4は現在投稿準備中である *Hatschekia* 属の未記載種。図5は投稿中のペンネラ科の未記載種。スケールは全て0.2mm。